



ICFを活用した支援機器のマッピング － 第2報

著者名：井上剛伸¹⁾，浅川育世²⁾，上村智子³⁾，石川浩太郎¹⁾，石渡利奈¹⁾，硯川潤¹⁾，
中山剛¹⁾，西脇友紀¹⁾，水野純平¹⁾、阿久根徹¹⁾，清水如代⁴⁾，田上未来⁵⁾

1)国立障害者リハビリテーションセンター，2)茨城県立医療大学，3)信州大学，4)筑波大学，5)厚生労働省



背景・目的

- 「支援機器」（H19社会援護局長勉強会）：
これまでの補装具や日常生活用具の範囲にとらわれず、障害者の生活を支援する幅広い範囲を包含する機器の総称
- 支援機器の有効活用は障害者支援における重要課題
- 厚生労働省では、現在、支援機器の開発から評価、利用に至る全体を視野に入れ、調査、研究事業を展開している。
- 支援機器に関するデータベースの充実や、それを用いたガイドライン作成に対する重要性の高まり



研究目的

利用者の心身機能と、支援機器が主に作用する国際生活機能分類（以下ICF）における活動・参加の項目を基に、既存の支援機器の包括的分類表を作成し、それに基づいた機器の選定・導入運用に関するガイドライン作成に資する情報を整理すること



ICFを活用した支援機器のマッピング

- ICFの心身機能と活動・参加により支援機器の利用者の特徴と利用場面・目的を表す対応表を作成した
- 収載した機器は、視覚機能領域、耳鼻科領域、四肢体幹機能領域、認知機能領域の各分野からの情報に基づいて抽出した
- これまでに、648種類の支援機器を収載した
- 収載情報は、支援機器名、カテゴリ、画像、説明文、備考などとし、ICFおよびISO9999のコードを登録、検索することができる機能や、それらのコードの対応づけの確信度について評価を行える機能も組み込んだ（右図）

The screenshot shows a table with columns for ICF domains (心身機能, 活動・参加) and rows for various assistive devices. An orange callout box points to the table with the text: "支援機器名、画像、ISO9999のコード". Another orange callout box points to the ICF domain headers with the text: "ICFの心身機能と活動・参加により支援機器の利用者の特徴と利用場面・目的を表す対応表を作成".

ICF-支援機器マッピングの例（視覚機能領域）
[データは日本点字図書館ホームページより]
* 視覚・聴覚・肢体・認知機能の648種類の機器を収載



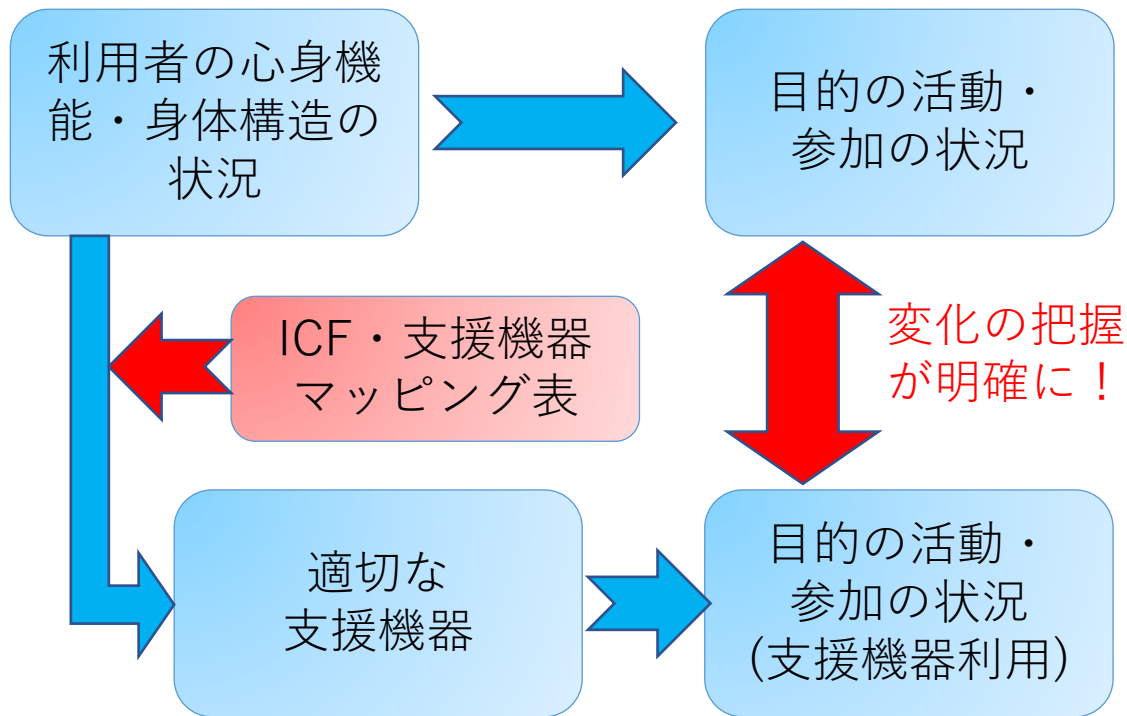
ICFを活用した支援機器のマッピング

- ICFの心身機能と活動・参加により支援機器の利用者の特徴と利用場面・目的を表す対応表を作成した
- 収載した機器は、視覚機能領域、耳鼻科領域、四肢体幹機能領域、認知機能領域の各分野からの情報に基づいて抽出した
- これまでに、648種類の支援機器を収載した
- 収載情報は、支援機器名、カテゴリ、画像、説明文、備考などとし、ICFおよびISO9999のコードを登録、検索することができる機能や、それらのコードの対応づけの確信度について評価を行える機能も組み込んだ（右図）

ICF-支援機器マッピングデータ登録システム



支援機器の選定・導入運用ガイドライン 骨子案の作成



ICF・支援機器マッピング表を活用した
支援機器の選定・導入運用モデル

ガイドラインの骨子案

- ・ 支援機器の定義と特徴
- ・ 利用者の状況と支援機器の対応に関する考え方
- ・ ICF の概念を用いた支援機器選定手法及び ICF ・ 支援機器マッピング表の解説
- ・ 支援機器と関連法：関連する法律、制度に関する解説および資料
- ・ 支援機器データベース等の情報の入手に関する解説および資料
- ・ 支援機器の開発における専門職種や関わり方の解説

今後、これらの成果を基にガイドラインを開発する予定

※本研究は厚生労働行政推進調査事業費19GC2002により 実施した

